

「活用」の力を育てる評価問題

単元名「ものが燃えるとき」
—啓林館「わくわく理科6」—

評価問題例

ろうそくに集気びんをかぶせる実験を、2種類行いました。次の問いに答えなさい。



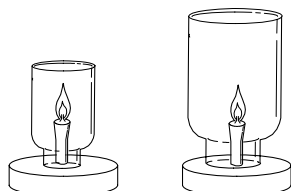
1 左の図のように、火のついたろうそくに、集気びんをぴったりかぶせました。

(1) ろうそくの火は、どうなりますか。

{ }

(2) そのようになったわけを書きなさい。

{ }



A

B

2 次に、左の図のように2本のろうそくに大きさのちがう集気びんをかぶせました。

(1) AとBとで、ろうそくの火にどのようなちがいが出ますか。

{ }

(2) そのようなちがいが出たわけを書きなさい。

{ }

(3) 1の実験の結果をうけ、あることがらをよりはっきりさせるために2の実験を行いました。2の実験を行うことで、よりはっきりしたことがらは、どのようなことでしょうか。

{ }

燃焼に空気が必要であることについての理解を問うとともに、目的に従って条件を変え、実験を計画する力、実験結果を考察し、結論を引き出す力、自らの考え方を論述する力を評価する。

評価問題のポイント

評価問題シートはこちら

CLICK

本単元は、主に、

- ①既習事項を活用して予想し、実験によって確かめる学習
- ②学習内容のつながりから仮説をもち、探究活動を通して検証する学習
- ③理解した「規則性・法則性」を実際の道具に適用し、まとめる学習

から構成されている。

ここで例示したのは、より確かな結論を得るために一連の実験を工夫し、結論を導き出す力を問う問題である。

2つの実験を比較し、そこから何が結論付けられるか、を問うとともに、実験を行う意図を明確にし、見通しをもって探究できる力を育てることをねらっている。

授業展開例へ

HOME